

# ふるさと創造懇談会

ふるさと創造懇談会を3月25日（水）、26日（木）、27日（金）の3日間、町内3カ所で開催いたしました。

今回の広報では、当日お受けしました質問を中心に内容を掲載させていただきます。なお更に詳しい説明を聞きたい方は役場総務財政課までお問合せいただけますと、担当者にお繋ぎいたしますので、お気軽にお問合せください。



## 「まちづくりハンドブック」について

ページで

農業、産業、子育てなど項目別に事業内容を記載しております。また、担当部署も電話番号と併せて掲載しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

## 「新しい交通体系について」

今月末をもって運行を終了するJRに替わり、4月1日よりバスが沼田・深川間を結ぶ「新たな交通手段」として運行することとなりますが、速達性を重視するとともに、朝方の一つの便のみ深川西高校を終着とする直通便に加えて、旭川・札幌方面へのJRとの接続性にも配慮してバス事業者3者と調整を図ったうえで、バスの時刻表を作成いたしました。

運行するバスに関しては、本町からJR深川駅までを朝夕、夜間、速達便として乗車時間を極力短縮した中で運行される「道北バス」と、定期券をお持ちの学生用として、JR深川駅まで運行される「明日萌観光バス」、そして深川市立病院発着として日中運行する「空知中央バス」の3事業者によ

り、平日19便、土日祝日13便が運行されることとなります。

## 「NUMATA TOMATO」

TOWN構想加工トマト  
作付奨励・支援事業について

本町の特産品である「トマトジュース」や「ケチャップ」は、多くの消費者から好評を得ており、「加工用トマト生産量日本一」を目指し、トマトを入口に町づくりを図る「NUMATA TOMATO TOWN構想」を進めておりますが、近年は気候の変化などにより収量が減少しており、翌年の製造までにおいて欠品が生じる状況となっております。

原料である「加工用トマト」の確保を図るため、令和8年度から、新たな作付奨励事業や栽培支援、また、これまでの事業の拡充を実施いたしますので、少ない本数からでも結構ですので、加工用トマトの栽培にご協力をお願いいたします。

まず、家庭菜園での栽培についてですが、新たに二つの奨励・支援事業に取り組みます。

作付奨励事業ですが、出荷いただいたトマトは1キロ・40円（税込）で買い取りとなりますが、新たな奨励事業として、出荷1キロにつき3円を買入額とは別に交付

させていただきますとしました。

次に栽培支援として、現在、各ご家庭の家庭菜園にて加工用トマトを栽培いただいておりますが、春先の「畑おこし・畝たて・マルチ張り」といった作業が大きな負担になっていることから、加工用トマトの畑の「床づくり」を町で作業・経費負担を行い、新たに支援させていただきますこととしました。

床づくり前の肥料の準備・散布、また栽培管理・収穫はこれまでどおり皆さんで行っていただきます。収穫したトマトは、コーミ北のほたるファクトリーにて、日にちを決めて集荷いたします。

お友達と一緒に楽しみながら栽培をしている方もいらっしゃると思いますので、10本・20本といった本数からでもご協力をお願いいたします。

農業者向けの新規事業ですが、秋のトマト出荷は、ピーク時期が集中してしまいがちですが、出荷を出るだけ平準化するため、ピーク時期より早く出荷いただいた加工用トマトについては、出荷奨励金に1キロ当たり3円を「早出し奨励金」として上積みして交付させていただきます。

また、トマト栽培において「尻ぐされ」が発生する場合がありますが、要因の一つとして水不足に

より土中のカルシウムをうまく吸収できない事が言われており、収量減少に繋がってしまうことから、新たに灌水チューブの購入費助成を行ないます。

次に、拡充事業として「作付奨励金の増額」についてですが、これまで買入単価とは別に、1キロ当たり3円の奨励金を出荷量に応じて交付しておりましたが、令和8年度から1キロ当たり7円の増額を行い10円といたします。

また人手不足対策として【おてつ旅】という【お手伝い】と【旅】を楽しみながら、収穫に従事いただく人と生産者を繋ぎ、費用の一部を助成する事業や人手不足や身体的負担などの課題を解決し、栽培面積・収量の増加を図る「加工用トマトの収穫機械導入」にも新たに取り組むこととしています。今年、栽培するか分からないけど、ご興味がある・ちょっと聞いてみたい方がいらつしやいましたら農業推進課までご連絡ください。

### 資源ごみ回収強化について

沼田町が進めている「ゼロカーボン」に向けて今年度強化する「資源ごみの回収」についてお話しさせていただきます。

現在、沼田町ではごみ処理費用として、毎年4800万円以上の

処理費用を支払っており、非常に大きな負担となっております。

一番多いのは「燃えるゴミ」で年間約400トンにのぼりますが、実はこの中には本来リサイクルできる「雑紙」が約2割も含まれています。

この「雑紙」を分別することで、町にも住民の皆様にも3つの大きなメリットが生まれます。1つ目は、ゴミを減らすことで処理費用を抑えられることです。2つ目は、分けた資源を売却することで町の「収入」に変えられます。3つ目は町民の皆さんが使用するゴミ袋を減らすことができます。

まずは「雑紙」と言われるお菓子の箱や封筒、包装紙など、身近な紙のほとんどが、資源になります。これらを紙袋に入れたり、ヒモで縛ったりするだけで燃えるゴミが減ることになります。また、缶詰の缶なども、サツと洗うだけで、燃えないゴミではなく、資源ゴミとして回収することができます。

この取組を町民の皆様が無理せず取り組めるようにするため、資源ごみをお持ちいただけると「NumaCaポイント」お渡しする「もつと！ぬまたりサイクル大作戦」という事業を始めます。皆様一人ひとりのちよつとした

行動が、ゼロカーボン実現に向けた大きな一歩となりますので、無理のない範囲で、ご協力をお願いいたします。

### 沼田厚生クリニックの診療体制について

沼田厚生クリニックの院長である鳥本医師が定年退職となるため、令和8年度から新たな診療体制となります。

鳥本院長の後任として旭川厚生病院の消化器内科に勤務されている斎藤義徳さいてんよしのり医師を院長に迎え、兼村医師と2名体制で内科の診療に当たっていただきます。

外科につきましては、旭川大雪病院から応援派遣として西田恭博にしだやすひろ医師に毎月第2・4金曜日の午前中に診療していただきます。皮膚科・リハビリについては変更ございません。

町としてこれからも沼田厚生クリニックと連携し、引き続き町民の皆様にとって安心・安全な医療体制が図れるよう務めていきます。

また、昨年12月から3月までの間、町社会福祉協議会が実証実験として取り組んでおりました福祉有償車両の運行が4月より本格運行となります。



運行体制が月曜日から土曜日となり、ご自分で公共交通機関を利用できない方を対象に自宅から川市立病院の間を送迎いたします。実施主体は、町社会福祉協議会になりますので、詳しくは、町社会福祉協議会にお問い合わせください。

## 「めまたみらいわくわくアリーナプロジェクト」の検討について

老朽化が進む体育施設の今後についてですが、町民体育館は一般の方にご利用いただっており、主に定期利用団体が利用しています。現状築50年以上が経過しており、町民体育館、中学校の体育館共に老朽化が進み、健全度や耐震指標が低くなっていることから、優先的に改修することが望ましいとされています。

まずは、住民や各団体の意見を幅広く聴取するために話し合いの場を設けて、建設の可否も含めて将来の体育施設のあり方について話し合い、基本方針をまとめます。その後基本構想・基本計画の策定作業を進めていきます。

事業費、施設の規模、建築場所、利用方法なども含めて皆様と検討しながら進めていきたいと思っています。

## 「部活動地域展開の推進」について

部活動の地域展開については、少子化により全国的に部活動の地域展開が進められていることや学校では教員数の減少、専門的に指導できる教員が少なくなってきたおり、このままでは部活動の継続が難しくなるため、学校、地

域（各団体）、教育委員会が連携しながら地域指導者を育成するなど検討を進めています。

沼田中では、卓球部以外は合同で部活動を行っており、近隣の中学校でも生徒数が減って部活動の選択肢も限られていることから、合同で部活動を行なっている中学校がほとんどになっています。

このような状況を踏まえて、子ども達のスポーツ環境、文化環境を守っていくために教育行政が責任を持って部活動の改革を進めて行きたいと考えています。令和8年度は、地域で指導できる方を部活動指導員として依頼していき、専門性や経験を活かした指導者、そして地域指導者の育成をしていきます。

子ども達の部活動を守るためには、町民皆様に参加していただき、持続可能な環境を作っていくかなければなりませんので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

また、部活動の地域展開とあわせて、卓球留学を進めていきます。連携協定を結んでいる札幌国際大学と協力して卓球の名門クラブを全国から誘致して、中学生、小学生、沼田の子ども達も含めて卓球の練習を沼田町で行います。この卓球クラブ誘致によって、

高校・大学との連携の道を探りながら子ども達が活躍できる環境を作っていきます。

またこの卓球留学が北海道の地域クラブのモデルになれるよう体制を作っていきたいと考えています。子ども達がそこで活躍することによって人材育成にも繋がり、それが地域で循環していくようなシステムを構築することを目指しています。

## 「主な質問」

Q 加工用トマトの苗は何本からでももらえるのか？

A 何本からでも可能です。また少ない本数でもマルチ作業は行います。

Q 福祉有償車両は一定の期間だけの利用もできるのか？

A 事前申請が必要ですが、利用する方によって柔軟に対応させていただきます。

Q 子どもが減少傾向である。町として増やすための施策はあるのか？また、障がいを持つ子どもが増えていると聞か

が、その子への対応や町外から受け入れる案はあるのか？

A 令和8年度から「沼田認定子ども園発達支援室ほぷら」を沼田保育園で開設します。ここでは子どものケアや保護者のサポートを行いません。

Q 部活動で合同活動をしていく中で市町村間の対応に差がないようにしてほしい。

A 北空知で助成金や送迎など同じ支援、サポートができるよう協議を進めていきます。

Q 友好交流協定を締結した台湾瑞穂郷との進展は？

A 令和7年に台湾瑞穂郷を訪問しました。町としては雪を見てもらったり、太鼓などの文化交流を視野に入れていきます。

Q バス転換後、通勤での定期利用は把握しているか？また通勤者への何らかの支援は考えているのか？

A 正確な数字を抑えていませんが、JRからは数名程度と聞いています。高校生以外は、JRに申請していただき補助されます。また、町としては町外に通勤している方に通勤手当の補助金があります。